

コラム

みやちゃん と ご一緒体験記

Vol.50

人生百年時代の生き直しについて考える

3月のオンラインによる「がん哲カフェ」の際、みやちゃんから女性映画監督の松井久子さんが思想家の子安宣邦さんと再婚されたという話を聞いたものの、がん哲カフェコラムの中に盛り込むのを忘れてしまったので、どこかで何とか触れたいと思いこの場を借りることにしました。それぞれが再婚で、結婚という形をとられたのは数年前、当時89歳と76歳の高齢カップルの誕生となり、両者とも自立した現役の職業人だけになりに話題になったようです。私も確かに誰かに聞いた記憶があり、松井監督の作品となじみがあったこともあり興味津々でしたが、言語化するのはこれが初めてとなります。

正直、このニュースを聞いた時は驚き、「ええ～そんなに年をとってから結婚するの？」「これから先は介護と死という大変な問題の方が多いはずなのに」「家族の理解はあるのかな？」など考えたものです。

もちろん老々介護は大変とはいえ、パートナーがいた方がなにかと心強いとは思いますが。この話題に関する記事を調べますと、「生き直し」「高齢者も幸福になる権利がある」といった言葉を述べられているのがとても印象的です。高齢者とはいえお二人とも思想家と映画監督、現役で仕事をされていることから一般の方々（私を含む）とは生活水準も考え方も違うことは明白、きっと理想の生活を送られることでしょう。超高齢化社会、人生百年時代を牽引する高齢カップルの好事例となり、迷える高齢者の背中を押してくれるのではないのでしょうか。

気になっているテレビCMにパラマウントベッド「INTIME」の<人生にチカラをくれる電動ベッド>があります。ご存じの通り、高級ベッドのCMで、そこに登場する高齢男女は間違いなく富裕層の方々に、全員若々しく見えます。既に仕事を引退し

て時間もお金もたっぷりあり、残りの人生をやり残したことがないように存分に楽しまなくっちゃ〜とばかり、サーフィンをしたりジムで身体を鍛えたり仲間と一緒にの食事を楽しんでいたりする様子が描かれています。少し前のニュースで、最近では基本的な身体の使い方が身についていない子どもが多い、つまり「子どもロコモ」が増加していると報道していましたが、このCMの高齢男女はロコモとは無縁のように思えます。

60歳頃に定年退職した人たちが、時間はあるけど老後の生活を楽しむだけのお金が心配という人たちには、夢のような生活です。高齢社会の日本では、こういうイキイキ充実ライフを送っている方々ばかりではありません。みやちゃんが訪問薬剤師として担当している方の中には、身寄りがなく独り暮らし（認知症の方もいる）、古くて狭い賃貸アパート暮らし、生活保護受給者……といった境遇の方々がが多いのが実情です。

近年、熟年離婚が増加している反面、死別や離婚などでパートナーのいない男女向けの婚活が流行しているようです。先日みたテレビニュースでは、シニア向け婚活パーティーの様子が報道されていました。妻に先立たれた60代後半の男性は、残りの人生を一緒に過ごしてくれる伴侶を見つけるために参加し、「やがて自分の身体が動かなくなった時、面倒をみてくれる人が必要」「このまま孤独に死にたくない」「子どもたちの世話になりたくない」といった発言をされていました。

……誰もが、自分の介護や最期のことを案じているのです……。

先日、TVで「ロストケア」（2023年/日本）という映画を鑑賞しました。「ロストケア」とは、「喪失の介護」という意味。ある介護施設で、松山ケンイチ演じる仕事熱心な介護士が、施設がサポートしている高齢者40余人を殺害するという事件がおきます。実は、この心優しい介護士は、過去、自分の父親を熱心に自宅で介護していましたが、介護と仕事の両立が破綻し、仕事もお金もなくなり、おいつめられて愛する実父を殺害した過去があります。苦く辛い過去の経験から彼が得たものは、家族の絆が呪縛になっている……。国が救えない当事者（高齢者）やその家族を誰かが救わなければならない。誰もできないなら、自分がやる。

「僕はお年寄りを救ったのです」と言う男の姿が印象的でした。殺人は肯定できませんが、厳しい介護の現実を思い、深く考えさせられました。

[ロストケア：作品情報 - 映画.com \(eiga.com\)](https://www.eiga.com/works/lost-care/)

介護士に家族を殺された遺族の反応として、「救われた」という遺族もいる一方で「人殺し」と介護士をなじる遺族があります。その実、「人殺し」呼ばわりした遺族の方が介護疲れがひどく、施設のスタッフが心配していました。

「救われた」と発言したシングルマザーの女性は、家族を見送った後、自分に好意をよせる男性から求婚されます。プロポーズした男性は、壮絶な介護が終わったばかりなのに、やがて必要になるであろう自分の介護を、意中の女性は快諾してくれるだろ



うかと心配でなりません。しかし、女性は、生き直しを決意し第二の人生を引き受けます。その中に介護問題が浮上するのは当然とばかり快く……。その生活には高級な介護ベッドも海外旅行やエステに行く余裕もなさそうですが、穏やかな時間が流れるような予感がします。

年齢を重ねるにつれ自身の身体の変化は顕著になってきます。介護になれる心構えや知識を身につけ、幸福な年寄りを目指したいですね！

HAP : <http://www.hap-fw.org/>

